

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年8月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670104506号
法人名	有限会社ドリーム・ミソノ
事業所名	グループホーム小野の里
所在地	鹿児島市小野2丁目10-18 (電話) 099-220-7070
自己評価作成日	2012年7月12日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年7月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

パーソンセンタード・ケアを職員全体で共通理解し本人の気持ちや想いを大事にした支援を行なっています。持っている機能を生かしていただきながら役割を持って活動的に表情豊かに生活される入居者も多くお互いに有難うの行き交う温かいホームです。入居者・職員共に明るく落ち着いた雰囲気でのんびりゆっくり生活されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

無理強いしない事を前提に利用者が職員とともに役割を持って生活している。職員は利用者との関わりに自然体での日常生活を維持をするよう意識して取り組み、あえてホーム内リクリエーションを取り入れず、生活リハビリとしてこれまでの家事生活の維持を支援している。職員は、利用者を人生の先輩としてとらえ、今まで生きてきた体験や料理の作り方など教わることを通して、ケアの向上につなげている。利用者は本、新聞、週刊誌を読みながら、表情も明るく、会話が広がるような活気ある雰囲気が感じられる。各居室は生活感あふれる夫々の個性が見られ、一つとして同じ空間になっていない。利用者のわがままに付き合う介護、諦めない介護に徹し、「あるがままの貴方にそっと寄り添い、貴方の出来る事、したい事を尊重し・・・・・・」という理念の通り、利用者、管理者、職員の優しさあふれるホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼で理念を復唱し共通理解した上で実践へとつなげている。	ホーム便りにも理念を掲示し、管理者は笑顔で優しく接する事を大前提とし、職員に啓発している。朝礼、職員会議などで振り返りを行い理念の共有と実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。ホームの行事に案内したり廃品回収などにも参加している。	町内会に加入し、清掃作業、廃品回収に参加している。ボランティア訪問や回覧板配布、保育園との交流も出来ている。地域住民との関わりを深めることが今後の課題としている。	ホーム側から積極的な働きかけを行い、運営推進会議のメンバーにも地域住民代表を入れるなど、地域との交流に向けた対策が望まれる。
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症のご家族を抱える方々の相談を受けたり高齢者サービス利用のお手伝いや説明・案内にも取り組んでいる。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	話し合いの中でご家族の思いやつぶやきなども含め認知症の勉強会なども取り入れたりしている。	定期的に家族、入居者、職員の参加の下、開催されている。全家族にホーム便りで参加を呼びかけているので家族の参加は多い。利用者の状況報告、ホームの問題点、改善事項についての意見が出されている。認知症についての勉強会も実施、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の主催する勉強会や説明会に参加したりしている。	市より高齢利用者にお祝いを届けてもらったり、介護相談員の受け入れも行っている。生活保護受給者もいて福祉課とは毎月、報告・相談できている。行政から運営推進会議への参加はもらえてない。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を毎月実施している。カンファレンスなどの際にも議題に触れ拘束の無いケアを職員全体で取り組んでいる。	毎週、委員会で検討し、毎月の職員会議の中で工夫の事例や課題に基づいて研修、報告している。日中は施錠せず状況把握を重視し、利用者に役割を与え、生きがいをもち気分転換を図るなど、工夫や個別の対応で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を毎月実施しカンファレンスでも話題に上げたりして高齢者虐待防止法の理解を深めたりきちんとそれぞれが理解した上で介護が出来るようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンスなどでも話題に触れたり成年後見制度についての冊子などもいつでも見れるよう休憩室に置いて活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は一緒に契約内容・重要事項説明書の内容を確認している。合間に表情を確認したりして理解・納得・了承してもらいながらわかりやすく説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置している。外部に意見が届くようポスターを掲示したり面会時や運営推進委員会などいつでも意見が言えるような雰囲気作りに努めている。	面会時や電話連絡時に意見や要望を聞いている。口答で言いづらい対策として第三者委員の設置や居室にノートを設置し、書いてもらっている。運営推進会議にも毎回多数の参加があり、相談事にも気軽に対応できている。毎月のホーム便りでも細かく情報発信されている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスなどで職員の意見を聞いたり個々に個人面談を行ったりしている。	2ユニット合同で毎月のカンファレンス及び各委員会で職員の意見や提案を聞く機会、話し合いの時間を持っている。申し送りも合同で行い、情報の共有を全職員が全利用者を把握できるように図っている。離職者も少なく資格取得にも意欲的である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っている。取得後は労働条件に反映させ職場内で生かせるよう努めている。		

鹿児島県 グループホーム小野の里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部から来る研修案内を朝礼やカンファレンスで紹介したりして機会を提供している。受講後は報告書を作成し職員に内容を還元できるように報告している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>関連事業所や他事業所との意見交換や見学研修等を通じサービスの向上が図れるよう取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望の面談時などに生活状況を把握するよう努めている。本人様に会い困っていること・不安に思っていることなど思いをゆっくり聴いた上で安心して生活できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い・困っていることや不安などゆっくり聞いたうえで事業所としてどのような対応が出来るか一緒に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い・状況を確認し改善に向けた支援の提案を行ったり、早急な対応が必要な相談者には他サービス機関へつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員・入居者がお互いに協働しながら穏やかに生活しやすい環境を一緒に整えて馴染みの関係が出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や便り等で日々の暮らしの状況や気付きをお伝えして家族と情報共有を図っている。ホームも家族と同じ想いで支えていることも理解していただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が利用している馴染みの美容院に行っている。外出など家族の協力などもらいこれまで大切にされてきた人・場所に行きついでゆっくり過ごされている。訪ねてこられる友人等もホームで歓迎している。	なじみの関係が継続できるように家族の協力も得ながら行きつけの美容院、病院、自宅訪問、墓参り、寺参りなどに出かけている。図書館通いや友人、知人と外食に出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人様が出来る事をしていく中でお互いが支えあえるよう職員が調整役として間に入り支援している。利用者の関係を把握し職員間でも情報を共有できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も入院先等に出かけ見舞いに行ったり退去後の情報を把握しながら相談にも応じたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成時や面会があったときなど家族や本人様より希望や意向をお聞きしている。記録から分かる情報などは職員間でも共有できるよう申し送りなどを利用して確認している。	食事、衣服、入浴などは複数の選択肢を設けて自己決定を図っている。日常の会話、表情、言動、視線などのサインを見逃さないように心がけている。できる限り、利用者のわがままに付き合う支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や利用している施設等からの情報で把握している。入所後も本人にかかわる情報の収集をご家族等に協力いただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人の生活のリズムを職員が理解し介護記録の情報や職員からの情報を全員で確認し把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いをプランに反映できるよう話し合いを持っている。カンファレンスを開き意見交換・モニタリングを職員間で行い介護計画に生かしている。	モニタリングを毎月行い、必要であればその都度見直しを行っている。定期的には半年に1回の見直しを行っている。これまでの生活支援の継続として夫婦入居の利用者に就寝前、居室にて奥様と一緒にみずいらずでの晩酌をプランに掲げ、本人がより良く暮らすための支援をし、効果を得た事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者の状態変化や気づきを個別に記録として残し情報共有を行なっている。記録を生かしプランの見直しにも活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の状況に応じて柔軟に病院受診等できるよう介助を行ったりしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>利用者が安心して暮らせるようボランティアや消防署との連携を行なっている。近隣の商店に買い物に一緒に出かけたり近隣保育園の園児とも交流が出来るよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医療機関・利用者のかかりつけ医での往診・受診がスムーズに受けれるよう家族・病院と連携している。</p>	<p>入居時にかかりつけ医を確認し定期、随時に家族や職員が付き添い受診している。往診の利用者もいる。協力医療機関とは24時間連携が図られている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>体調や些細な変化を見逃さないよう毎日バイタルチェック表に記録して早期発見に努めている。利用者の表情などにも気をつけて声かけしている。変化など見られる際協力医療機関に相談できる関係が出来ている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は家族と連絡を取り合ったり入院先のドクターや看護師から情報を交換したり相談したりしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約の際に重度化・終末期について家族と話し合いを持っている。本人の気持ちを大切にしながら状態変化等ある際は都度家族の意向も考慮してお互いに確認しあっている。かかりつけ医とも連携を図っている。</p>	<p>重度化や終末期については契約時にホームの方針を説明し、同意を貰っている。入居中は主治医の指示の下、方向性を決めてホームで出来る最大限の支援を行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>避難訓練に加え応急処置・手当の勉強会を計画している。緊急時のマニュアルをいつでも見られる場所へ置き声かけしている。</p>		

鹿児島県 グループホーム小野の里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に避難訓練の計画を実施している。訓練に対しては地域との協力がまだ不十分であるので案内を出しながら呼びかけしていく。</p>	<p>年2回以上昼夜間想定で行っている。ホーム便りで家族に呼びかけており、過去には参加の経緯がある。スプリンクラーや自動通報装置、備蓄も確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が表情や行動を見て本人の気持ちや意思を大切に考えうえで声かけできるよう配慮しながら支援している。	接遇についての勉強会や処遇内容にも度々目を通してもらい、人格の尊重やプライバシーについて指導・徹底されている。全職員が声掛けもやさしく、ゆっくり支援されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状況や状態に合わせて複数の選択肢を設けて声かけするよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人のペースを大事にしながら必要に応じて柔軟に対応できるように会話の時間を多く設けて希望に沿えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	一緒に服装などを選んだり洗面台で鏡を見ていただきながら髪の毛など身だしなみを一緒に支援している。家族の協力ももらい馴染みの理美容室の利用もしていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや片付けの手伝いをお願いしている。昼食準備などそれぞれの力に合わせて一緒に支援している。同じテーブルで入居者・職員で食事を頂いている。	無理じいしないで利用者、職員共に準備や後片付けを実践している。朝食は個別にパン食か米食かの希望を取り入れた支援ができています。食事終了後も利用者の「ご馳走様」「美味しい」「今日のスイカは甘い」などの声が聞かれ活気ある食事風景となっている。	

鹿児島県 グループホーム小野の里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事摂取量や水分摂取量をチェックしている。本人の嗜好も考慮しその方に応じた食事の形態に出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状況に合わせて声かけ・口腔ケアの介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し尿意のはっきりしない方でも時間・パターンを考えてトイレにお連れし気持ちよく排泄できるよう支援している。使用しているパンツ・パットの検討を適宜している。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けでなく利用者の動きのサインを見て支援している。布パンツを目標に掲げ、排泄支援はリハビリと捉え、自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べること・活動する事・気持ちよく出すことを職員で理解し興味のあること・出来る事に参加促しながら予防に努めている。牛乳やヨーグルトなども提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の希望回数・時間・温度など話をしながら入浴を支援している。ただし午前から夕方まででお願いしている。	週3回くらいの目安で入浴支援しているが、希望があれば毎日でも可能である。時間も夜勤帯を除いては自由、ゆっくり楽しんでもらえる入浴になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や表情・言動を観察し必要に応じてゆっくり休めるよう声かけしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに薬の説明書を綴じ都度確認している。変更や指示が出た際は申し送り事項に記録し朝礼時にも伝達している。服薬は手渡しで服薬まで確認するよう伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様が出来る事を職員も理解しお願いできる仕事は時間がかかってもしていただいている。行為をほめる言葉をいれ意欲を持ってしていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行が難しい方も車や車椅子を使用し一緒に出かけたりしている。行事で戸外で弁当を食べたり外食も企画している。家族の協力ももらい個別でも一緒に外出していただいている。	日常の買物や散歩を兼ねた寺参り、図書館、ドライブ、外食、弁当持参の花見、ソーメン流しなど支援している。車椅子利用者も気軽に出かけられる機会を作っている。家族の協力も得られ、外出の機会が多く、利用者も生き生きしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の協力をもらい手元を持っていらっしゃる方もいる。事業所で保管されている方も外出や買い物などではお渡ししたりして出来るだけ出来る所はしていただけるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人様へかかってきた電話などいつでも取り次いでいる。訴えにより希望あるときも一緒に支援してかけていただいている。電話の位置なども配慮している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂のテーブルの他ゆっくりくつろげるようソファを置いたり和室に座卓を置いたりしている。また季節季節の花を玄関やホールに飾り季節を感じていただいている。</p>	<p>日当たりも良く明るい広々したホールには、和室やテーブル、ソファが配置され、気の合う同士がテレビ視聴、会話を楽しんでいる。和室の座卓では洗濯物をたたんだり、夫々の利用者が役割を果たす、家庭延長線上の環境作りに工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下や玄関前などに椅子を配置しくつろいでいただいている。入居者同士の利用もあり話が弾むこともある。ソファ・座卓なども配置に配慮してゆっくりくつろげる空間作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家族・本人に説明を行い出来るだけ馴染みのあるものを持ち込んでいただいている。テレビ・仏壇・タンスなどそれぞれのものが持ち込まれ過ごしやすい部屋となっている。	居室入口には利用者希望の暖簾がかけられ、ラジオ、テレビ、信仰されている宗教関係のものもある。椅子、テーブルを置いて居室で親しい人とお茶を楽しむ場もあり、各利用者の生活を反映、個性がうかがえる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	つぶやきや身体・活動の状況に応じて都度職員で話し合っている。本人がよく理解できる表示の仕方や細かく声かけを入れ短く伝えながら自立した生活が送れるよう支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム小野の里 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム小野の里 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない